

祝辞

公益社団法人日本医師会会長
世界医師会前会長

横倉 義武



公益社団法人日本獣医師会が昭和23年の設立以来、獣医学術の振興・普及、公衆衛生の向上や安全・安心な畜産の振興、さらには薬剤耐性（AMR）対策などに真摯に取り組まれ、創立70周年を迎えられましたことに対し、衷心よりお慶び申し上げます。

さて、医学の歴史は感染症との闘いであったと言っても過言ではありません。

近年だけをみましても、エボラ出血熱、MERS、ジカウイルス感染症、国内ではデング熱の流行など、様々な感染症が問題となっておりますが、これらの感染症の多くは人獣共通感染症です。

グローバル化が進むなか、人間や動物の世界的な移動が増え、さらには温暖化等の気候変動により、感染症の宿主となる動物の生息地が気候の適した場所に移動するなど、我が国でこれまで感染事例がない、あるいは極めて稀であった感染症の発生が現実的な脅威として浮かび上がってきております。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、国際的な交流が一層盛んとなると考えられますが、同時に病原体を持った動物の流入、あるいは感染症に罹った人の往来なども懸念されます。

このことから、国内のみならず、国際的な感染症対策が重要となりますが、その意味で医療、獣医療等の関係者がより一層連携し、一体的な感染症対策の推進に繋げていく必要があると考えております。

2012年10月の世界医師会と世界獣医師会による協力関係を構築するための覚書に続いて、我が国におきましても、2013年11月に本会と日本獣医師会との間で学術協力の推進のための協定書を締結し、緊密な連携のもと、感染症対策等の強化に取り組んでいるところであります。

こうした取り組みは徐々に拡大し、今では全国すべての地域の獣医師会と医師会との間におきまして協定の締結に至っております。ワンヘルス社会の構築に向けた取り組みのためにも、貴会をはじめ獣医師の皆様方の一層のご活躍が不可欠であると認識しており、本会といたしましても、引き続き、貴会との連携がこれまで以上に緊密になりますように、更なる取り組みを進めてまいり所存であります。

結びに、藏内会長のもと、日本獣医師会が70周年を契機にますます発展されますこと、また、獣医療の各分野でご活躍されている会員各位のご健勝を深く祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。